

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1472000601
法人名	有限会社 共営
事業所名	グループホーム MOMO
訪問調査日	令和8年3月3日
評価確定日	令和8年4月16日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000601	事業の開始年月日	平成14年11月1日	
		指定年月日	平成14年11月1日	
法人名	有限会社 共営			
事業所名	グループホームMOMO			
所在地	〒254-0076 神奈川県平塚市新町9-7 新町ビル1階			
サービス種別 定員等			登録定員	名
			通い定員	名
			宿泊定員	名
■ 認知症対応型共同生活介護		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和8年2月23日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月20日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りを大切にして、皆様の居心地が良い場所になる様に努めています。手作りの食事提供もホーム開設時より行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和8年3月3日	評価機関 評価決定日	令和8年4月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所は、有限会社共営の経営です。有限会社共営は2002年に平塚市で設立された法人で、同年に平塚市内でグループホームを1ヶ所開設しています。代表の「生まれ育った土地を離れることなく、穏やかな暮らしを送っていただきたい」という思いの下に「グループホームMOMO」を開設しました。事業所は鉄筋3階建てビルの1階部分にあり、桃色を基調とした外観で、内装は淡い桃色で統一され、華やかさを感じられる1ユニット9名のグループホームです。立地は「JR平塚駅」北口から「田村車庫行き」もしくは「伊勢原行き」のバスに乗り「中原東」停留所してすぐ目の前にあります。近隣には学校や競技場などがある大きな総合公園があり、四季折々が楽しめる環境にあります。
- 事業所では、開設当初から職員の手作りした食事提供を継続しています。食事はQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めるためにも必要不可欠な要素であることから、季節感・彩り・品数・盛り付け等に配慮し、五感で食事を楽しんでいただくよう食事の提供に注力しています。また、食事に使われる旬の食材やデザートで提供しているフルーツは、旬の物を旬の時期に召し上がっていただくように心がけています。
- ケアについては入居者の高齢化に伴い、転倒リスク等も高まっていることから、令和7年秋から「家族面談」を実施しています。日時は家族に決めていただくようにして、事前に話題を提供したり、入居者の今の状態と今後を見据えた説明ならびに相談機会を設けながら、入居者と家族にとって最善のケアを提供できるよう支援を行っています。
- 地域との交流については、回覧板や自治会長から直接情報を入手しており、地域の運動会・秋祭り・ミカン狩り等へ積極的に参加して、他者との関わりを持ち続けられるよう意識した支援を行っています。年2回開催される地域の方のコミュニケーションの場である「ファミリー食堂」にも声を掛けていただき、参加した際には自治会の方が事業所まで送ってくださるなど、良好な関係も構築されており、代表の思いが具現化されています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームMOMO
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見える場所に掲示している。理念の共有と実践に努めている。	施設長が作成した2項目の理念「健康と生きがい対策」「個別性を尊重したケア」をフロアや事務室に掲示して職員への周知・浸透を図っています。入居者が暮らしやすく、笑顔の絶えない事業所を目指し、ミーティングで話し合い、共有しながら実践に繋げています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事など、お誘いが有るときは、出来るだけ参加させていただいています。	自治会に加入しており、回覧板や自治会長から地域の情報を入手し、運動会・公民館祭り・ミカン狩り等の行事に積極的に参加しています。さらに、地域の会社が場所を提供している「ファミリー食堂」にも利用者と一緒に出かけるなど、他者との関わりを持ち続けられるよう交流を図っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームについて、地域の皆様に知って頂く様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をご家族様に知って頂き参加をしていただくように努めている。	運営推進会議は自治会長・民生委員・家族。地域包括支援センター職員に案内を出し、参加を呼びかけています。事業所の現状・行事・研修状況・ヒヤリハットの報告等を中心に、質疑応答や地域の情報ををいただきながらサービスの向上に努めています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所とは、分からない事について、相談をさせていただきます。	市役所の担当者には適宜メールで相談し、電話やメールで回答をいただいています。グループホーム連絡会に加入しており、シフト調整をしながら会合にも参加しています。地域包括支援センターとは運営推進会議にも参加いただいていることから、地域包括支援センター主催の研修にも参加するなど、連携を密にしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送りで、小さいことでも気づきがあれば話し合い対応している。	身体拘束廃止委員会は、3ヶ月に1回の開催を基本としていますが、必要に応じて随時開催しています。毎日の申し送りでも身体拘束について話しながら、身体拘束につながらないよう早期対応に努めています。動画視聴研修を個別もしくは全員で受講し、振り返りを行っています。マニュアル・指針も整備され、身体拘束をしないケアに努めています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、スタッフ同士共有し話し合っている。	虐待防止委員会を設置し、年2回開催しています。身体拘束と同様に毎日の申し送りでも話し合っています。年1回虐待の芽チェックリストを実施し、日々のケアについて振り返る機会を設けています。研修は動画視聴で受講しています。施設長は、日頃から職員の話をよく聴くとともに適宜面談を行い、ストレスを溜めることの無いよう、配慮しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については、話し合い活用できるよう支援する努力支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、丁寧に詳しくご家族様やご本人様に説明を行って同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営について意見を伺い努力している。	事業所では、毎月お小遣いを持って来ていただくようにしており、来訪時に意見や要望を伺っています。また、昨年秋から実施している家族面談でも、入居者の今の状態と今後を見据えた説明ならびに相談機会を設けながら、家族からの意見や要望の聴取につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を、聞く機会を設けている。	朝の申し送りや月1回のミーティングで、職員から運営に関する意見や提案などを聞き、連絡ノートで共有しています。施設長は現場に入ることも多く、日頃から職員とコミュニケーションを取りながら、意見や提案を聴取したり、適宜個人面談も行いながら、風通しの良い職場環境を心掛けています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を整備し、個人的に話しを聞くなど努めている。	施設長・管理者は職員の個々の事情を配慮し、日勤・夜勤を含め、職員が働きやすいようシフトや勤務時間も考慮しながら環境整備に努めています。施設長も現場に入ることが多く、業務やケアについて職員から上がった意見や提案に対して、検討したうえで改善につなげています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ各自で研修が行える様に努めている。	接遇・看取り・虐待防止・重度化に対する研修など、二次元コードを活用した、動画による研修を行っています。職員会議で一緒に視聴したり、個人で視聴することもあり、報告書を提出してもらい、習熟度を確認しています。外部研修には管理者が参加し、職員への伝達研修を行うなどして共有を図っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	推進会議や家族会議などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安など傾聴しながら、信頼関係を築くなど努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望を伺い、様子を見守る中で信頼関係を築くなど務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人様とご家族様の意見を伺い、希望される支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本人に合わせた声掛けなどを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会議を行い、現況を把握して頂き、アドバイスも頂いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話を傾聴や共感しながら、支援している。	本人が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援しています。家族・親戚の方が来られるほか、昔の教え子の方が毎年来られる方もいます。家族面談を始めたことで、遠方の家族の方も来られ、利用者も同席し、話をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの様子を見守る中で、皆様がつろぐ空間作りや、支え合える場所の提供をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的に努めてはいないが、退去されホームに来られる方も居られる為、様子を伺いながら、相談などに努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室内の様子を見ながら、懐かしい話(写真や持ち物など)を伺い、生活してきた情報を収集し、支援に役立てる。	日々の暮らしの中の会話や表情から、本人のこだわりを把握し、支援に役立てています。入居の際には、今まで使っていた物を持って来ていただけるよう話しています。ご主人が作られた切り絵を部屋の壁に飾ることで、落ち着いてられる方もいます。塗り絵・編み物など、好きなことを出来るよう支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に自宅での生活状況を伺いながら、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤や夜勤共に毎日の様子を見守る中で相談しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者と話し合い、情報共有しモニタリングに反映させている。	介護計画については、職員全員でモニタリングを実施し、作成したモニタリング表を家族に送付し、支援内容等に関して家族からの意見や要望を加味して、介護計画に反映させています。介護認定時には、可能な限り家族に立ち会っていただくようにして、現状理解を得られるようにしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態をサービス提供表や申し送りで、スタッフ同士共有支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わられて行く中での、状態をスタッフ同士共有し、柔軟に取り組むことが出来る様に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の事については、家族様逐一連絡し、往診日來訪をお願いする時もある。	入居時に、家族や本人の希望を伺ったうえでかかりつけ医を決めていただいています。現在は全員が事業所のかかりつけ医の月2回の訪問診療を受診しています。皮膚科等には家族対応でお願いしています。訪問マッサージを利用している方が多く、毎日のようにどなたかの所に来ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2度医療連携にて、利用者様一人ひとりの情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様に情報を提供して頂き、ホーム側も入退院ご本人様が安心出来る様に支援していきたい。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に情報共有を行い、ホーム側出来る事を理解して頂くと共に支援を行っている。	入居時に重度化や終末期に向けた指針を基に説明を行い、同意書を取交わしています。救急搬送に関しても併せて家族の意思確認を行っています。終末期に入る際には、医師から家族に対して看取りの再確認をしたうえで、同意書を取交わした後に、利用者が穏やかな最期を迎えられるよう支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の状態をスタッフ同士共有を行い状態を診て、看護師や主治医の指示を受けてる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の研修を行ってスタッフ同士共有している。	年2回、昼夜の地震・火災発生想定で入居者にはヘルメットを着用していただき、避難訓練を実施しています。BCP(自然災害・感染症)研修も年2回実施しており、直近では台風災害を想定して研修を行いました。備蓄品は食料・水等を3日分程度確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない声掛けに注意しながら対応している。	事業所の理念にも「個別性を尊重したケア」と掲げており、入居者一人ひとりの人格を尊重したケアを心掛けています。呼称については、名前にさん付けを基本とし、入居者に対してのみならず、職員間も統一することで日頃から意識づけをしています。申し送りや排泄失敗時には羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人に希望などを伺うが皆様と一緒に楽しみながら出来る事をその都度考え支援する。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて、支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとり、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事をお願いしている。包丁は使用せずキッチンハサミで千切り、小口切り等して頂いています。	開設当初から職員の手作りした食事提供を継続しています。食事はQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めるためにも必要不可欠な要素であることから、季節感・彩り・品数・盛り付け等に配慮し、五感で食事を楽しんでいただくよう食事の提供に注力しています。出来る方には、野菜の下拵え等を手伝っていただき残存能力の維持につなげています。誕生日やお祝い時には、祝い膳に盛り付けたり、お寿司を取るなど喜んでいただけるよう工夫して提供しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食べやすい食事提供を行っている。嚥下体操も毎日食べる前にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアは、スタッフ見守りと介助にて行っています。また、訪問歯科主治医・衛生師にアドバイスを頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの、排泄を促しています。また、時間でのトイレの誘導も行っている。	出来る限りトイレでの排泄を継続出来るよう、排泄表を見ながら、時間やタイミングを見計らった誘導で、トイレでの排泄につなげています。夜間はパット交換の方は時間で交換し、起きてきた方は様子を見てトイレへ誘導しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、食事での便秘改善を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、様子を見ながら変更も行い、危険性が無いように支援している。又「季節湯」も行っています。	週2回の入浴を基本とし、入浴前には健康状態や本人の意向を確認し、無理強いすることのないよう対応しています。シャワー浴の方は身体が冷えないようお湯で濡らしたタオルを掛けるなど、配慮しながら入浴支援を行っています。時季にはゆず湯・菖蒲湯などで季節感も楽しんでいただけるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に合わせた声掛けや傾聴を行う。居室内の空調、環境整備行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々変わられて行く中で、薬については、主治医の指示にて、スタッフ同士共有や確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を探し、楽しみにして頂きながら支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物をしながらの散歩や地域の行事などに出掛けている。	1対1で散歩や買い物にお連れしたり、玄関前で外気浴をしています。地域の行事の、運動会やお祭り、ミカン狩り等に参加しています。年2回開催される地域の方のコミュニケーションの場である「ファミリー食堂」にも声を掛けていただき、参加した際には自治会の方が事業所まで送ってくださっています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お小遣いとして施設でお預かりしています。必要な物はご家族様に伝え、購入して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人が希望された場合は、電話にて今の状況を伝えて、スタッフが支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にしています。花や行事など、手作りの物で月日を思い出される様になっています。	内装は淡い桃色で統一され、華やかさを感じられる造りになっています。共用空間は、家庭的な雰囲気と、季節感を大切にした装飾がされています。雛人形や鯉のぼりを飾ったり、利用者のご主人の切り絵を壁に掲げたりと、温かさや居心地の良さも工夫しています。利用者の好きなカラオケ大会を毎週日曜日に開催し、施設長がピアノを弾いて皆で歌ったりと、明るさの溢れた事業所になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事提供時の自席は決めています、それ以外の場合は、思い思いの場所にて過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を、持ってきて頂いています。利用者様本人も手の届く所に置かれています。	居室には、エアコン・クローゼット・洗面台が完備されています。入居時に、好みの物・馴染みのある物を持ち込んでいただき、テレビを見たり、ラジオで音楽を聴いたり、本を読むなど、思い思いの時間を過ごせるよう支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様本人に居室内危険性の無いように家具の配置を行っているが、日々変わられて行く中で、使い方が判らない物などについては、家族様と相談を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームMOMO

作成日 令和8年3月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	推進会議についてご家族様に知って頂き出席をして頂きたい。	ご家族様の出席を促す。	ご家族様面談時に運営推進会議についての説明を行う。	1年
2	24	利用者本人様の自宅での生活状況を詳しく伺いたい。	ご家族様に伺う。	ご家族様に伺い、ケアに繋げたい。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。